



ぼくは、かみのぼうしをかぶり、あたらしいらっぱをもって、
もりへ、さんぽにでかけました。

もりのなか (福音館書店)
マリー・ホール・エッツ (文・絵)、間崎ルリ子 (訳)

質問1. 「ぼく」は何歳ぐらいで、どんな見た目をしているのでしょうか？

質問2. 「ぼく」がかぶっているのはどんな帽子でしょうか？

質問3. なぜラッパを持って森へ行くのでしょうか？

あなたの想像と比べてみよう！広報担当者の答えは9ページ

想像力は 創造力の第一歩

「想像力は、知識よりも重要だ。知識には限界がある。想像力は、正解を包み込む。」

これは、20世紀最大の物理学者であるアルバート・アインシュタインの言葉です。相対性理論を提唱し、学者として大きな功績を残した彼は、想像力 (Imagination) の大切さを主張しました。

想像力を養うツールとして大きな役割を果たすものに、読書があります。漫画や挿絵がある場合を除き、本には文字のみが書かれています。人は本を読むとき、特に小説などの場合は、書かれた言葉から情景や心情、筆者の伝えたいことなどを思い浮かべ、頭の中でイメージを描いています。楽しみながら自然と想像力を養っているのです。

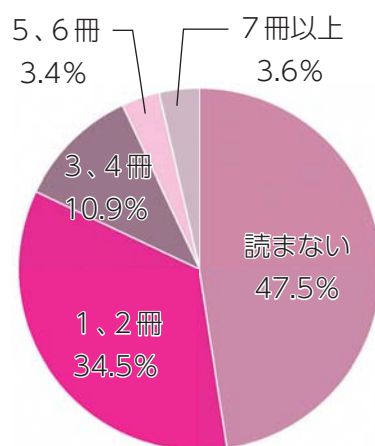


だんだん本を読まなくなっています

皆さんは、普段本を読んでいますか？文化庁が実施する「国語に関する世論調査」において、平成25年度の調査では読書に関する質問がありました。1カ月に大体何冊くらい本を読むか？という質問に対し、47・5%の人が「読まない」と回答。平成14年度の調査で同じ質問をした時と比べて「読まない」人が約10%増加するという結果になりました。

また、読書量が以前に比べて減っていると回答した人にその理由を尋ねたところ、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」と答えた人が51・3%を占めました。

1カ月に読む本の冊数



文化庁 平成25年度「国語に関する世論調査」



そうだ、 図書館へ行こう！

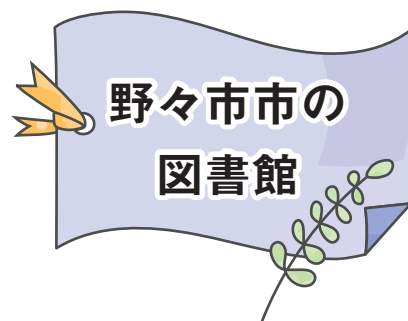


2017.11.1
学びの杜のいち カレード OPEN

平成18年12月、野々市市（当時の野々市町）は第1回目の新図書館検討委員会を開き、新図書館の建設に向けて動き出しました。建て替えが求められた背景には、前図書館の老朽化や、人口に対して望ましいとされる広さを満たしていないことによる蔵書数の不足などの問題がありました。

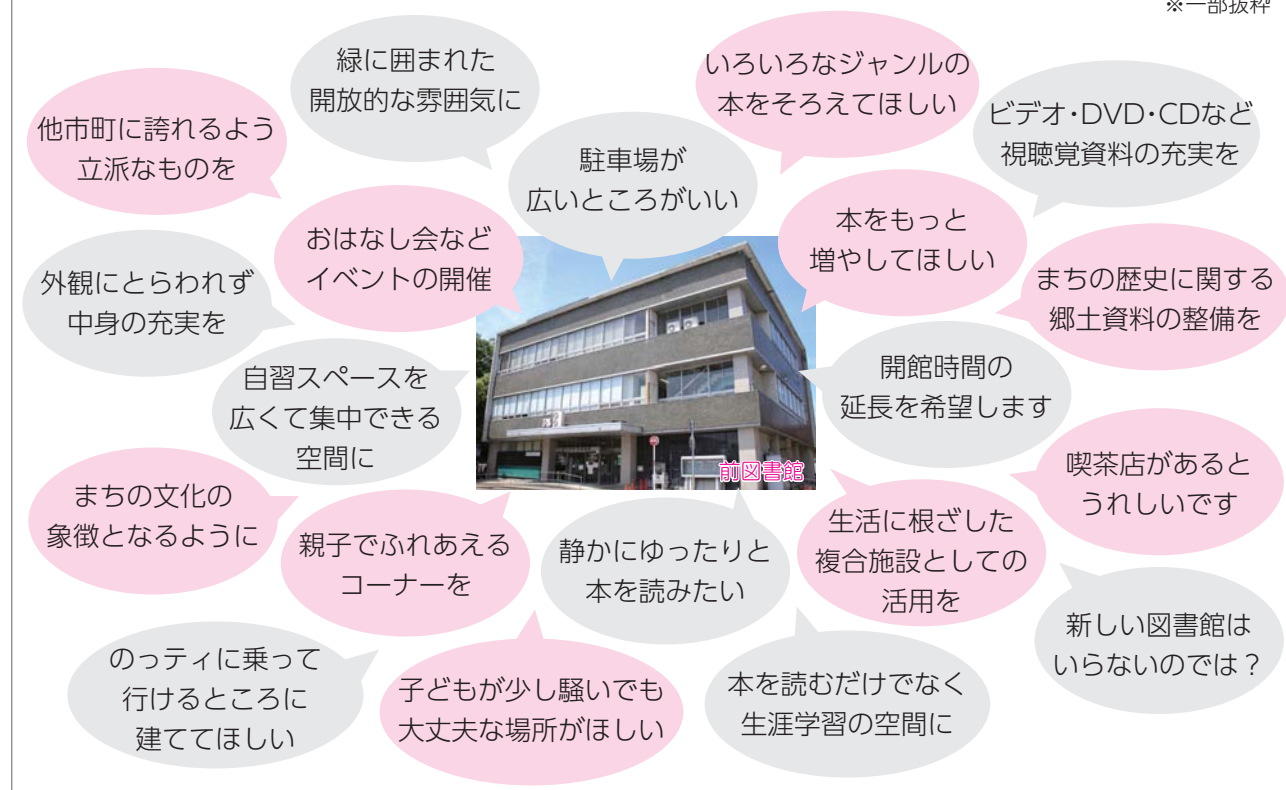
平成19年6月には「野々市町における望ましい図書館像」とはどうあるべきかを問うべく、町外者を含む利用者から意見を募集しました。

389人から寄せられた意見の内容は多種多様。特に蔵書の数・種類に関することや、駐車場に関するのと、子ども向けの設備に関する事などが目立ちました。対立する意見もあり、検討委員たちは利用者の皆さんにとって何を取り入れるべきか、頭を悩ませました。



平成19年当時 野々市町の新図書館についてのご意見募集に寄せられた声

※一部抜粋



本を読むと、どんないいことがあるの？



読書がもたらすメリットとは

忙しい現代人にとって、だんだん減ってきた読書の時間。余暇の過ごし方も多様化する今、本を読むことにはどんな魅力があるのでしょうか？図書館司書の瓜生さんに話を聞きました。

想像力を向上させることができるという点は、本の持つ大きな魅力だと思います。テレビなどを見ると、映像が事実として頭に入ってきてしまいがちですが、絵や写真がない本の場合はイメージが固定されないで、想像を無限に広げることができます。

また読書の良いところは、自分ではなかなか味わえない体験ができる点です。擬似的ではありますが、いろいろな本を読むと、経験の幅を広げていくことができます。実際に旅行には行けなくても、旅行書の写真集を見ると、写真の場所に行った気分になれたりしますよね。ナンセンス絵本というジャンルもその一種です。例えば、おしりが探偵だったり

とか、現実の世界ではありえないことを描いた絵本を指すのですが、普通ではないけれど成り立っている世界がそこにはあって、楽しく読み進めることができます。

本もデジタル化が進み、電子書籍も一般的になってきましたが、私はやっぱり紙の本が好きです。読み終わった部分のページの厚みと、残りのページの厚みを比べて「こんなに読んだ」という達成感を味わえたり、もう読み終わってしまうという寂しさを感じられたり。電子書籍でもページ数は見られますが、現物でぱっと目に入るほうが感動が大きいと思います。

読書に興味がない人も図書館で本棚を眺めてみると、タイトルや表紙が気になるものがあると思います。気軽にページをめくってみてください。興味の幅が広がりますよ！



新しい図書館の誕生へ！

平成26年6月、委員会による審議、市民の意見および提案を反映させた「（仮称）野々市市立図書館・市民学習センター基本構想」が完成しました。内容は、市全域を対象とした生涯学習の新たな拠点として、新図書館と市民学習センターの複合施設を整備。それぞれの機能を連携させ、潜在的な利用者呼び起こし、市民による生涯学習活動を活性化させるというものでした。新たな図書館は市民の学びと文化・芸術・創造、情報発信、市民協働におけるシンボルとして位置づけられました。

その後、平成28年に基本設計を公表し、建設に着工。まちの真ん中に大型のクレインがそびえ立ち、少しずつ完成予想図が形になっていきました。施設の名称は、「学びの杜のいち カレード」。愛称の「カレード」は、県内の皆さんから募集して決定しました。期待と注目が高まる中、整備が進められてきた大型施設は、今年11月1日、ようやくオープンの日を迎えました。

館内はどうなってるの!? 探検してみました

エントランス(入り口)



金沢工業大学 4年
岩田 栄祐さん
(本町2)
好きな本: 氷菓

金沢大学 3年
山本 佳奈さん
(住吉町)
好きな本: 重力ピエロ



START

書架



天井まで
本がぎっしり

ブックタワー



サービスカウンター



創作スタジオ

陶芸も
できるよ！



キッチンスタジオ



音楽スタジオ



学習室



オープンギャラリー



おはなし会コーナー



憩いの広場



カフェ



楽しかった～！きれいな施設に
本がいっぱい！また来たいな♪

GOAL

カレードへようこそ 新しいまちづくり拠点

ついに
OPEN！



堀尾 あづみ 館長
好きな本: モレルの発明

好奇心の扉が開く

新図書館機能を含む複合施設「学びの杜のいち カレード」。堀尾館長に、施設に込められた思いや今までの図書館との違いについて話を聞きました。

カレードの大きな特徴として、全国でも類を見ないほど施設にICT（情報通信技術）を活用しています。自動貸出機・返却機や、タッチパネル式の電子掲示板、電子新聞、タブレットの貸し出しが一堂に会していて、こんな図書館はなかなか他にないのではと思っています。ブックタワーのように本がデザインの一部になっているところもあり、おしゃれな空間を楽しめるので、皆さんに気軽に来てもらいたいですね。

また今までの図書館とは違い、市民学習センターとの複合施設になっています。活動の部屋はガラス張りなので中の様子が見えます。もし「私もやってみようかな」と思ったら、空きがあれば当日参加できる場合もあります。ふらっと立ち寄れば、きつ

カレード Information

- ◆午後10時まで開館
- ◆約25万冊所蔵(開館時は約13万冊からスタート)
- ◆キッチンスタジオ・音楽スタジオ・創作スタジオなどを併設

と楽しめることが見つかりますよ。「読書は想像力を育む」というのは私も実感していて、特に子どもの読書活動でステップアップが見られると思います。読む本を絵本からだんだん挿絵のないものに変えていくことで、頭の中で場面の絵を描けるようになっていくんです。最近では、小学生の課題で「読書感想画」というのもありますよ。言葉と映像（イメージ）の関係性を頭に入れていくことで、語彙力も身につきます。

私はカレードを野々市のランドマークとして、皆さんに愛される施設にしたいと思っています。建物全体が憩いの場であり、入った人を包み込んでくれるような場所です。「カレードがあるから野々市に住もう」と言ってもらえたらうれしいですね！

3ページの質問
広報担当の答え

あなたの想像と、似ていますか？
違いますか？比べてみると面白い！

1・2



3 ラッパの音で誰かを起こしに行くから。

にだってなれるんです。想像することとは何かを生み出す創造の第一歩。次のアインシュタインはあなたかもしれない。

カレードには、普通の図書館とはちよつと違う、ワクワクするようなヒト・モノ・コトとの出会いが詰まっています。

「最近忙しかったな。今日は新しい図書館でゆつくり過ごしてみようか。」

「そうね、私も何か新しい趣味を見つけたいし、行ってみたいわ。」

そんな皆さんをきつと笑顔にします。まずは立ち寄って本を眺めてみませんか？新たな発見と交流のはじまりです。

子どもからお年寄りまで、みんなが楽しめる読書の時間。ページをめくるとそこには、いつも自分がいる世界とは違う物語の世界が無限に広がっています。

本の主人公になれたとイメージしてみてください。あなたは可愛いネコや、世界を救うスーパーヒーロー

カレード

×

人

×

まち

ワクワクが
止まらない！

